

舟戸千枝子

今まで出会った 全てが心の糧。



14歳の挑戦最終日。私たちは石動町の福祉作業所「あけぼの第二」と、鷺島の「あけぼの第二」の取材に行きました。最初に訪ねた「あけぼの第二」では、たくさんの人々が作業をしていました。しかし1つ気になったことは、障がいをもった方々が仕事をしていたことです。流れ作業で、靴下の値札や袋詰めの仕事がされていました。あけぼの作業所は、子どもに障がいを持つ親御さんの想いから誕生した場所です。子どもが支援学校を卒業し、就労もできず一日家で過ごす。そんな生活を一生続けられるでしょうか…。



あけぼの作業所は通所される方の人格と人間としても尊敬を守り、地域社会での自立した生活を営むことが出来るように支援することを目的とし、日中弁当を持つことで居場所として昭和54年に作られました。「ここで作業をしている方々はみんな、自分が出る仕事をみつけてやっているんです。」今、自分が出ることを自ら進んで人の役に立つことをやっつけて、普通は嫌がることを当たり前にやっつけて、すごいなと思いました。

「あけぼの第二」では、物の組み立て作業をやっています。印象に残ったのは、みんなが、楽しそうに作業をされていたことです。一生懸命作業しているのはもちろんのこと、一人ひとり得意な分野で楽しそうに仕事をしている姿が見ているだけでも楽しくなりました。

「自然に福祉関係の仕事に興味を持ちました。自分の生い立ちがそうさせたんです。」と言っておられました。舟戸さんは、普段は家に帰ると静かで本を読んだり、あまりしゃべらないそうです。しかし、「あけぼの」では、明るく元気になるために大きな声を出し、

作業所に通所されている利用者の方とお話します。とても心が優しい方だと思いました。「きれいな仕事をして下さいね。」そう仕事を頼む際に言うのが早くなるそうです。「怒る」と「怒る」を区別すること。「怒る」は、自分の感情を相手に八つ当たりすること。「叱る」は、その人自身を良くするため、相手も自分も悲しい気持ちになる。

「私は、常日頃職員の皆様にも、自分自身にも利用者さんの気持ちに寄り添ってということをお伝えしています。利用者さんの親御さんのおつらい思いをすべて受け入れ支援することを大切にしてきましたつもりです。これが受容だと思っています。」舟戸さんと一緒に働いている堀さんは、

「人と関わる、人と話せる仕事が好き。」と言っておられました。最後に舟戸さんが「心の糧」が大切だと教えていただきました。14歳の挑戦のお二人は、これまでに親御さんや先生、いろ

んな方と出会い、今のお二人の性格や知識を得られたと思っています。私も今もお出合いのおかげで、多くの方からいろいろなものを教わり、今私舟戸千枝子ができたと思っています。」それはすべて蓄え、貯蓄と一緒にですね。糧というのだと思っています。ありがとうございます。心の糧は私の言葉やしていただいた優しいさすべてです。」

■舟戸千枝子

1956年6月29日生
趣味は習字(八段)、読書、植物を育てること、カフェでまったりすること。「趣味や芸術は、継続は力なりで、何事も継続すれば良いものになる。」

■あけぼの第二

小矢部市鷺島606
TEL:0766-672966

■あけぼの第一

小矢部市石動町930
TEL:0766-675145